

熱中症予防のため早期対応のお願い

(神奈川県労働局労働基準部健康課)

- 初夏は気温の変動が大きく、暑さへの身体の順応が不十分な時期です。作業
者からの身体の不調の訴えを確認することなく、水分と塩分をこまめに補給
させる、作業時間の短縮や十分な休憩を取らせるなど、職場では早めの対応
が必要です。
- 変調を訴える人が出たら、水分補給や休憩を取らせるほか、症状が悪化する
ことがあるので一人にしないことが大切です。
- 意識がはっきりしない、体に触ると熱いなどの症状があれば、直ちに氷で体
を冷やし、躊躇せず救急車を呼びましょう。
- 日中に熱中症の症状がみられた場合は、一旦回復し帰宅した後に、再度悪化
することがあります。通常の体調に戻らない場合は、早めに医師の診断を受
けましょう。
- 職場にWBGT値(暑さ指数)の測定器(湿球黒球温度計)を設置するほか、
環境省の熱中症予防情報サイトに掲載されているWBGT予測値・実況推定
値を作業前に参照するなど、WBGT値を活用した作業管理を徹底しましよ
う。